

1. 固定資産の取得について

固定資産取得と経営基本計画の設備投資

経営基本計画での令和2年度設備投資（税込）では、543,970千円の設備投資計画となっています。実績としては、643,820千円（税込）の投資が行われています。

予算書が手元にないので、評価ができませんが、設備投資計画が大幅に変更された理由を教えてくださいますか？

※経営基本計画のリニアック（高額医療機器）の投資金額と、取得されている放射線治療装置の税込金額ほぼ一致したので、経営基本計画は税込で作成されたものと解釈してお尋ねしています。

2. 固定資産の残存価額について

有形固定資産の減価償却については残存価額5%を残して償却をされています。

企業会計においては、平成19年4月以降、備忘価額（1円）までの償却が認められています。また、公営企業会計でも、備忘価額までの償却がみとめられています。

（償却できる）という規定ですので、強制ではありませんが、検討されてもいいかと存じます。

3. 無形固定資産の減価償却

上下水道施設利用権の償却が長期に渡って行われていませんが、理由はありますか？

4. 材料費

材料費に含まれる薬品費、診療材料費、医療消耗備品費それぞれが昨年度より増加しています。特に検査試薬（10,593千円増加）、診療材料（129,924千円増加）しています。

入院・外来患者数が減少し、入院・外来収益の合計も減少する中で、材料費が大幅に増加した理由は何でしょうか？棚卸資産（貯蔵品）も減少しており、購入された診療材料が棚卸として資産計上もされてないので、消費されていると考えられます。

5. 光熱水費

電気代が大幅に増加し、ガス代が大幅に減少しています。

取得された機械装置の効果でしょうか？検証されていますか？

	令和元年度	令和2年度
電気代	87,579,562	97,352,939
ガス代	70,834,730	53,807,723

総じて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や同感染症の陽性患者入院受入について、設備投資、診療材料の購入等、多額の支出や、人員の配置も含め、体制の整備に多大な苦勞をされていると存じます。そのような中で、最終純利益を計上されていますが、キャッシュフローにおいては全体として、マイナスとなっています。

一過性に生じた設備投資や経費支出によるものか、経常的に生じる経費支出によるものか分析を行うとともに、今後の状況や予測により、予算の見直し等を行う必要があるか否か動向を注視しながら、同時に判断をしていく必要があります。

令和3年9月6日

遠藤会計事務所

税理士 遠藤 康夫

